島嶼学概論Ⅱレポート　2013/01/28

教育学研究科１年　小瀬直人

本講義で，私は初めて中之島を訪れました。中之島は，鹿児島本土の南方にあるトカラ列島に含まれる離島で，鹿児島市からフェリーで約８時間かけて行くことができます。フェリーは週に２往復しかしないので，いつでも船があるわけではありません。

中之島はトカラ列島の中でも大きい島で，人口もかつては1000人ほどの頃もありましたが，今では150人程度しか住んでいません。島には天然の温泉が湧いており，港近くに２箇所あり，商店や民宿，診療所も一軒ずつあります。また，島にはきれいな形をした「御岳」という山があり，ときおり噴煙を上げているのが観察できます。

中之島に来て，私たちは３名の島民の方に，それぞれ畜産，漁業，医療の三点についてお話を伺いました。畜産については，スペースなどの関係から，出産から肥育業者に売るまでの，子牛を育てるプロセスで行っているといいます。中之島をはじめトカラ列島から出される子牛は質が良く，高値で取引をされるそうです。

漁業に関しては，キハダマグロ漁を主としてなさっている方からお話を伺いました。最近では漁も安定してきているようですが，漁をする場所への行き来に使う燃料代もあまり安くないため，余裕はそこまでないとおっしゃっていました。専業で漁師をなさっている方はほとんどいないそうで，漁業，畜産，農業などを兼業で行っているのが普通であるとのことでした。

医療に関しては，今の中之島は最低限の物しか揃えていないこと，そして医者がいるわけではないことが挙げられ，専門的な治療が行えない現状であると聞きました。島で行えない治療については，鹿児島本土までフェリーの上りの便に乗って移動しなければならないため，最も早くて８時間ほど，遅ければもっとかかるということが言えます。しかし，事態が深刻で，命に危険がある場合には，ドクターヘリによって搬送され，最近でも何件かの搬送例があったそうです。島の平均年齢は高く，高齢の方も多く住んでいるため，仕事も多く，話し相手なども含めてなかなか多忙ということでした。

島の小学校には，児童は８人しかおらず，複式で授業をしているそうです。学校を見まわしてみると，悪石島の小中学校，平島の小中学校など，トカラ列島の島々の学校新聞が校内の掲示板に貼られていました。各学校の児童生徒数が少ないことと，近くに似たような環境にある学校があるということから，交流を深めるために行っているようであり，非常に効果的な取り組みであると思いました。また，学校を訪問した日は休日でしたが，保護者を交えた読み聞かせ教室や書道の時間を設けており，島の一体感を感じることができました。

島の上のほうにのぼっていくと，牧場があり，そこには「トカラ馬」が放牧されていました。トカラ馬は，体は小さくポニーに分類され，鹿児島県の天然記念物です。また中之島には野生化した「トカラヤギ」が生息しており，今回も１匹観察することができました。

牧場の近くには民俗資料館があり，トカラ列島の各島について概要や，歴史や植物，動物，伝統文化に関することなど，トカラ列島を知ることのできる素晴らしい環境作りがなされていました。とりわけ目を引いたのが，ボゼの仮面です。悪石島に伝えられる盆踊りのことで，鹿児島県の無形民俗文化財に指定されています。

これまで述べてきたような環境にある中之島ですが，この島が今後発展していくにはどのよう

にしたら良いのかという観点で考えてみたところ，島で生活していくには，働き口を確保しなければならないということを聞いたので，何かしらお金のやりとりが生まれそうなことについて考えてみました。

中之島を移動する中で，かつては人が使っていたと思われる土地が竹で埋め尽くされている現状を見かけました。この竹の種類は太くならないので，建物を支えたりする骨組には使えませんが，竹細工や燃料として活用できるのではないかと考えられます。また，竹箸などにも活用することができます。

そうして刈り取った土地に，観光客がたくさん来るような施設を立てることが考えられます。例えば，キャンプ場を作って，本土の学校を宿泊学習で招いたり，県下の子どもが自然体験活動をする企画を催したりすることが挙げられます。また，島には老人が多いので，老人ホームを作って働く人材を本土から確保し，島の人口を増やすなどがあるのではないかと考えました。

島の方の話で，人を招く多くの取り組みをこれまでなさって来たそうですが，島に住む人を増やすには至らなかったそうです。しかし，やはり島に来るきっかけがあり，「中之島」という島を意識する人間が増えることによって，島に住みたいという人間が出てくるのではないかと思っています。そのためには，上で挙げたような取り組みと，何より国や県からの経済的補助が不可欠になってくると考えられます。簡単には獲得できないお金の使い道であるとは思いますが，徐々に活動を恒例化していき，リピーターを増やしていくことから始めていくべきだと思います。そうすることで，一定の成果が認められれば，補助金を支給してもらえるのではないと考えられます。そのため，島では他にどのような行事が行っていけるかをこれから私自身も当事者意識を持って考えていきたいと思います。

今回，講義として初めて中之島を訪れましたが，島の方も温かく迎えてくださり，大変居心地のよい 2 日間でした。気軽に話しかけてくださったり，多くのことを教えてくださったりと，島ならではの良さを実感することができました。海もきれいで，人も温かくて，日ごろの忙しい日々を忘れられる場所でした。今後，時間をつくって是非ともまた来てみたいと思います。

最後に，この島に来る機会を与えてくださった先生方，島民の方々には大変お世話になりました。非常に有意義な時間を過ごすことができたことを感謝します。今後ここで得た経験を糧にして成長していきたいと思います。ありがとうございました。

写真１　ボゼの仮面

写真２　港で釣れた魚